

緩歩

かんぽ
- 創刊号 -

題字：
洞慶院 丹羽鐵山 老師



静岡県第一宗務所青年会
会長
杉山隆光

風薫る好時節を迎えました。
宗務所管内御寺院様はじめ、会員
の皆様には日頃より青年会活動に御
理解、御協力を賜り厚く御礼申し上
げます。

「静岡県第一宗務所青年会を立ち
上げよう！」と十四年前の今頃、当
時現役だった諸先輩方が一致団結
し、平成五年に青年会が発足。その
御苦労は、十周年記念誌『経行』の
歴代会長様の手記より伺い知る事が
できます。

発足当時の私はまだ若く、右も左
も解らず先輩方の後ろをついて行く
のがやっとの状態でしたが、我々青
年僧であるが故にできる事、例えば、



布教活動、ボランティア活動等、青
年会の意義ある活動を続けていく内
に、絶対に必要性のある青年僧侶団
体だと感じ始め、一人でも多くの青
年僧に活動を通して向上心を感じて
もらいたく、微力ながら第七期会長
を務めさせて頂いております。

現在、青年会の活動と致しまして
は、発足当時より続いております花
祭り事業、歳末助け合い托鉢、今年
度第四回目を迎えます平和祈念托
鉢、安居者研修会、そして委員会活
動、研修会等を行っております。

特に花祭り事業に関しましては、
初代会長故武藤英明師の発案で「花
祭りキャンペーン」と称して一週間
かけてメッセージカードの配布、梵
鐘、大磬を各寺院での一斉打ち出し、
街頭で花一輪プレゼント等を行い、
四月八日は、仏教の源であります「お
釈迦様」の降誕日であるということ
を多くの人々に知ってもらいたい、
祝ってもらいたいと熱い思いを込
め、会員一人一人がそれを願い活動
してきたと記憶しております。毎年
四月八日が来ると、この時の事を思
い出し、同じ思いを込め、昨今では、
花の種にメッセージカードを添えて
配っております。

平和祈念托鉢におきましては「反
戦」「非戦」を広く社会に呼びかけ
「世界平和」を祈り、托鉢を通して
「争いのない社会」を作ればと祈
念しております。

生命は、全て自らの生命を最高に
活かしたいという願いを持っていま

す。例えばそれが野に咲く一輪の花
であつても、そこには生命の精一杯
の輝きがあふれています。生命のつ
なかりは、自分が自身を最も素晴ら
しく生きながら、他者を利していま
す。美しく咲いた花にミツバチが来
たりて、その花粉を遠くへ運ぶが如
く、そこには見事な調和が保たれて
います。

我々青年僧一人一人の命の灯は小
さくとも、第一宗務所青年会の活動
を通して、大輪の花を咲かせたいと
思います。

広報誌『緩歩』発刊にあたり、今
後とも宗務所管内御寺院様には、よ
り一層の御理解と御協力を賜ります
様お願い申し上げます。また、会員
の皆様には、更なる積極的な参加、
惜しみない協力の程をお願い申し上
げます。

合掌

発行 静岡県第一宗務所青年会
事務局 島田市神座一五七五 慶雲寺内
発行責任者 杉山隆光
編集 静岡県第一宗務所青年会
広報委員会
発行日 平成十八年六月一日

花配り

四月八日は、お釈迦さまのお誕生日「花まつり」です。この「花まつり」を、多くの人に知ってもらおうと、当青年会では、「花配り」をおこなっています。

沼津駅前、静岡駅前、焼津駅前、藤枝駅前にて、花の種と植木鉢のセットを配ります。

焼津駅前、藤枝駅前では「花御堂」を出し、甘茶の接待もおこなっています。



花御堂を出し甘茶の接待をしました

定例総会

四月末には、総会を行い、前年度の事業報告、会計報告・監査報告がおこなわれ、次年度の事業計画、会計予算案などについて審議し、承認します。

各委員会の活動報告、活動予定についても発表されます。

総会の後は、会員同士の交流を深めるため懇親会が開かれます。

研修会

青年会で組織している「教化研修委員会」「ボランティア委員会」が主催し、研修会をおこなっています。

教化研修委員会では、現在深刻化している「檀家さんの寺離れ」（檀家さんの寺に対する無関心）をとりあげ、これに対し各寺院でどのような活動をしているのか、またどのような活動をしていけば良いのかについて、講師をお招きし講演していただいたり、会員同士で意見交換をおこなったりしました。

静岡県第一宗務所青年会は



平成17年 御殿場時の栖にて

ボランティア委員会では静岡市にある「地震防災センター」に行き、

防災に関する講習を受けました。また、救急隊員による救命救急講習を受講するなどの研修がおこなわれました。

スポーツ親睦会

青年会員間の親睦を深めるため、「スポーツ親睦会」がおこなわれています。OBのみなさんにも参加して頂いています。

平成十六年度には、第一宗務所青年会十周年を記念し、静岡県内の曹洞宗青年会対抗のスポーツ親睦会が開かれました。

全曹青行事の参加

全国の曹洞宗青年会で構成される全国曹洞宗青年会（全曹青）の行事にも、静岡県第一宗務所青年会として参加しております。

平成十七年十一月二十四日に、岐阜県で行われた「禅文化学林」では、高橋副会長が活動発表をおこないました。

禅文化学林での発表内容

青年会とは、会員一人ひとりが自己を見つめ、「いまここ、現在の瞬間に起きていることにはつきりと気づいていく」気づきの集団、僧伽であると考えます。

そして「菩提心を発すというは己れ未だ度らざる前に一切衆生を度さんと発願し営むなり」と高祖様が示されるとおり、青年会活動は菩薩行の実践そのものです。

「タイプックバンクプロジェクト」では、読書の機会や本に触れる機会にめぐまれない地域の子どもたちに、多くの本を読む機会を贈りたいと発願し、募金活動を展開しました。

「平和祈念托鉢」では、自己を

平和祈念托鉢

平成十五年度から毎年十一月十一日（世界平和記念日）に、反戦・非戦を呼びかける「平和祈念托鉢」をおこなっています。

当会会員ばかりでなく、宗侶・寺族・檀信徒・梅花講員等「平和祈念托鉢」の趣意に賛同頂ける方に参加頂いております。

寄せられた浄財は、全額SVAシヤンティ国際ボランティア会を通じて、アフガニスタン復興支援に寄付いたしました。

趣意文

現今の世界情勢においては、戦争・地域紛争・テロリズム等の武力・暴力の行使によって、かけがえのない多くの命が失われ、残されたご家族に耐え難い悲しみを与え、また世界中の人々にも様々な不安がもたらされています。

有史以来、戦争や紛争は、多くの人々を巻き込み、犠牲にし、また貴重な文化的遺産をも破壊し、幾度となく国土を荒野と化して参りました。このような、いつの時代でも正義の名において繰り返し行われた人

このような活動をしています



平和祈念托鉢

間社会の愚かな所業は、一体何をもたらすというのでしょうか。真の平和は、争いによってもたらされることは決してあり得ません。未だに武力紛争のない世の中を実現できないでいる世界情勢がそれを物語っております。

我々曹洞宗静岡県第一宗務所青年会は、曹洞宗宗門の宗旨である一仏両祖のみ教えにしたがい、争いのない慈悲と寛容に満ちた世界を実現すべく、仏教徒として、いかなる社会

においても「反戦」「非戦」を広く呼びかけ、強く希求するものであります。六十二億の地球市民がかかえる矛盾は無尽であります。それに比べ我々凡夫の力はあまりにも非力であります。けれども私たちは、倦むことなく、止むことなく、「争いのない社会」の実現を愚直にも信じ続け、「真の平和」への願いを発し続けねばならないのであります。

以上の趣旨を広く世間に謳い、様々な活動を通じて、当会会員に限らず、宗門内外に賛同を呼びかけ、恒久なる世界平和を祈念するものであります。

二〇〇三年九月一日

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

歳末助け合い托鉢

十二月には、静岡青葉シンボルロード、焼津駅前、島田駅前、沼津駅前において「歳末助け合い托鉢」をおこなっています。

寄せられた浄財は、各地区の福祉団体に届けています。



発表をする高橋副会長

見つめながら青年僧としての誓願を立て、曹洞宗宗門の宗旨である「一仏両祖」のみ教えにしたがい、争いのない慈悲と寛容に満ちた世界を実現すべく、仏教徒として、いかなる社会においても「反戦」「非戦」を托鉢という「行」を通して広く世界平和を呼びかけています。

今後も青年会活動を通して、利他行・菩薩行の実践ということを見つめ直す機縁を得、個としては誤った見方、思いをしがちの中、青年会という僧伽によって道を正され、青年僧としての自覚と責任を持って行動していきたいと考えます。

新潟県中越震災支援活動

平成十六年は、観測史上最多となる十個の台風が上陸し、また各地で集中豪雨が頻発し、激甚な被害をもたらしました。さらに、十月には阪神淡路大震災以来の震度七を観測した新潟県中越地震が発生するなど、各地で自然が猛威を振るいました。

そのような中、当青年会では、十月に兵庫県豊岡市へ水害復旧支援活動（左頁）を、十一月に新潟県へ地震被害復旧支援活動をおこないました。

これらのボランティア活動の経験を活かし、当青年会ではハイゼックス袋（少量のお米と少量の水でご飯を簡単に炊くことができる袋）、「お地蔵さんのお助け袋」の頒布（左頁下）や、静岡県地震防災センターの見学、普通救命講習をおこなうなど、日頃から防災意識を高めています。

防災 万全ですか？



炊き出し用テントの設営

第一次ボランティアは三名が十一月十五日に新潟県長岡市に入りまし
た。十六日は、余剰支援物資の整理の後、新潟県第四宗務所の僧侶ボランティア「シンプウ会」六名と合流し、小千谷中学グラウンドに翌日以降使用する炊出用テントの設営、そして小千谷市災害ボランティアセンター（小千谷市総合福祉センター）玄閣横にて約二百名分の夕食（豚汁・米飯）提供に参加しました。
しばしば強い雨が降る寒中での作業となりました。



ペットボトルの分別・洗浄作業

第二次ボランティアは十一月二十四日に五名で出発しました。
二十四日は小千谷中学校にて炊き出しの手伝いをおこないました。
二十五日は小千谷市災害ボランティアセンターに登録後、山本山臨時収集場にて生ゴミの積み込み、ペットボトルの分別・洗浄作業を行いました。
災害後、約一ヶ月経っており、すでに人命に関わるような活動は終了していましたが、まだ多数のボランティア要請がありました。
（理事会報告書より）

普通救命講習



人工呼吸の訓練

平成十八年三月、ボランティア委員会主催の「普通救命講習」が、各地区単位で行われました。

救急車を呼んでから到着するまで全国平均で約六分。もし、傷病者の心肺が停止しており、救急車が来るまで、そのまましておくのと死亡する可能性が高くなります。救急車の到着を待つ間、人工呼吸や心臓マッサージ、除細動を行うことによって、助かる可能性を高めることができるのです。

ビデオと実技による、CPR（心肺蘇生法）の講習と AED（自動体外式除細器）の使い方の講習を受けました。

静岡県地震防災センター



静岡市葵区駒形通五丁目、「静岡県地震防災センター」があります。地震の揺れを体験できる「地震体験コーナー」や、消火器を使った消火訓練のできる「消火体験コーナー」など、災害について様々な情報を得ることが出来ます。

ホームページ <http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/>

特集

備えは

豊岡市水害支援活動

水害に遇われた被災者の方々に謹んでお見舞い申し上げます。報道関係を通してある程度の被害状況を予想してはありましたが、実際に現地に入ってその被害の甚大さを見せつけられ、自然の力の大きさと恐怖を最初に実感させられました。

当日は僅かに四時間ほどの作業しかできなかったわけですが、派遣させていただいたお家の方々には感謝の言葉をいただきましてこちらが返って恐縮してしまうほどでした。もう一日作業を続けることになった



土砂のかき出し作業



洪水によって倒壊した家屋

としても、果たしてどの程度お手伝いできるだろうかと思ってしまうほど、重労働の復旧作業をこなしていける方々には、まったく頭が下がります。

まだまだ日常生活を取り戻すには時間と労力を必要とすることは想像に難くなく、何らかの形で私たちもそのお手伝いができればと考えております。

最後に、被災者の皆様方の健康を祈念申し上げまして結ばさせていただきます。 合掌 (香村 一孝)

(兵二曹青様への寄稿文より)

お地藏さんのお助け袋

当青年会では、企画委員会を中心に「お地藏さんのお助け袋」を企画、作成致しました。

平成十六年、当青年会は、福井市、豊岡市、出石市、および中越地域への災害復興支援のためにボランティア活動に参加させて頂く機会を得ました。この実体験を通して、そこで学び感じ取った思いを基に「お地藏さんのお助け袋」を作成したものであります。

この袋は、災害救援用の「炊飯袋」であり、非常時に、少量のお米と少量の水でご飯を簡単に炊くことができます。

「お地藏さんのお助け袋」に関するお問い合わせは、普門寺（FAX/〇五四七・三五・二二五九）まで。



ボランティア委員会



委員長 磯田英之

委員長の任を全うできるように頑張ります。

十七年度は災害対策に関する活動をしてきた。

特に救命救急講座においては各地区別開催により五十一名が救命技能を修得できた。

また研修会により各会員が地震災害に対して意識を高めることができたと言えよう。今後は災害に対する活動だけでなく、ボランティア活動への協力・参加をしていきたい。



地震防災センターにて

教化研修委員会



委員長 梶川正則

第一曹青の発展とアピールに全力を尽くします。

時代の変化に伴い、寺院のあり方も見直しを迫られていることをふまえ、会員の啓蒙の場として研修会を企画できるようにこの一年務めてきた。

十七年九月の研修会では、東京桃源院住職奥野誠也師を招き、東京の一寺院のあり方を講義いただく機会を設けた。また十八年三月には、会員各々何かしなければならぬという自覚を察し、具体的な実践について会員相互の情報交換の場を設け、模索からスタートに立てるよう企画した。

上山予定の安居者研修会では、参加者の友人等への誘い合いもあり、他県からの参加者も多く、安居者育成の場として大変有効な場を持つことができた。

委員会の活動

企画委員会



委員長 戸田孝志

喜んで頂ける様な企画を検討していきます。

平成十七年度は、災害救援用炊飯袋の頒布の提案、デザインを検討し、「お地藏さんのお助け袋」として執行部に提案しました。

発足したばかりの委員会であり、とまどいもあったが会員の協力のもと足跡を残すことができた。



「お地藏さんのお助け袋」お米と水を入れて煮るだけでご飯が炊ける。
(第一曹青サイトより)

広報委員会



委員長 松永寛道

任に当たっては他に譲りたかった。

十七年度も引き続きホームページの維持管理及び更新を図り、また新たに、管内寺院及びその檀信徒向けの広報誌(本誌)の作成を試み、過去の実績を含め第一曹青の活動を紹介していく。

ホームページおよび広報誌を通して、当青年会の特色を出していく上で、より一層の広報活動を図りたい。具体的には引き続きホームページのこまめな更新や、主に会員向けに各種情報等の紹介や提供、リンク等の拡充をはかり、青年会の活動のみならず多義に亘るコンテンツを拡充していく必要がある。

また広報誌に関しても、特色を出していくには活動の紹介のみに止まる事無く、次号以降はそれぞれテーマを決めて広く世間に呼びかけるような記事内容が不可欠である。

静岡県第一宗務所青年会サイトのご紹介

<http://www.sizusosei.com/>

当青年会では平成十四年よりインターネット上にウェブサイトを（ホームページ）を公開しています。

当青年会の活動報告の他、道元禅師傘松道詠の解説をする「今月のことば」、法要の解説をする「曹洞宗の法要」などのコンテンツ（内容）があります。



閲覧回数は年間千件以上で、平成十八年四月十五日現在、五七〇〇を超えました。

これからも役立つ情報を掲載していきますので、「ご意見・ご要望をお寄せください。是非一度ご覧ください。」

活動報告

活動がおこなわれたとき、活動の様子を写真を中心に掲載しています。

また活動予定も掲載しています。



心と体のストレッチ

当サイトの人気コンテンツ。

「体のストレッチ」では、写真付きでストレッチ体操のポーズを説明しています。十六種類のポーズを紹介しています。



禅と食事

精進料理のレシピを紹介するコンテンツ。

平成十六年度に、大本山總持寺典座、小金山泰玄老師を取材させて頂いた時の様子も紹介。



曹洞宗の法要

曹洞宗でおこなわれている様々な法要を写真付きで解説しています。写真は「仏前結婚式」の様子を紹介しているページです。



平成十七年度 卒会者紹介

- 鬼頭廣順師(十二)
- 浜田健士師(十三)
- 遠山龍明師(一)
- 滝年勝師(十五)
- 伊藤浩憲師(十)
- 磯田聡禅師(七)

順不同 括弧内は教区

長い間お疲れ様でした。これから
もご指導よろしくお願い致します。

第七期 執行部紹介



副会長 高橋俊行

ご縁を深く見つ
め、ご縁の中で努力
していきたい。



副会長 香村一孝

青年宗侶の若い可
能性を信じ、一歩一
歩前進し活動してい
きます。



監事 桑原至人

会員名簿ナンバー
も一桁になり、さら
に本会の目的遂行に
努めます。



監事 柴田尚道

笑顔を忘れず柔軟
な活動が出来るよう
努めます。



理事 山田哲哉

より良い第一曹青
を目標し頑張りま
す。



理事 中村雄介

東部の皆様との架
け橋となれる様頑張
ります。



理事 徳月正道

青年会活動が更に
充実したものになる
様今後協力してい
きます。



理事 野原全州

一年間色々勉強さ
せて頂きました。更
に精進致します。



理事 加藤俊量

百尺竿頭進一歩



理事 梶田瑛浩

温故知新



事務局長 石橋龍哉

徳孤ならず必ず隣
あり



会計 村松幹雄

青年僧に何ができ
るのか。限りなき可
能性に向かつて事務
局一同頑張ります。



庶務 磯田辰哉

九年後の大会に
向けて日々精進致す
所存です！



書記 鈴木光洋

残りの任期、杉山
会長を盛り上げてい
きます。



書記 杉山隆元

わからない事はか
りですが、微力なが
ら頑張ります。

編集後記

この度、十周年記念誌の『経行』
を受ける形で当広報誌を『緩歩』と
名付けました。

『経行』も『緩歩』も歩く禅のこ
とを指します。「静」の坐禅に対す
る「動」の禅です。『辨道法』に経
行は「緩緩而歩、閑静為妙」とあり
ます。一歩一歩の歩みが只管打坐な
のです。理想を言えば、我々青年宗
侶の行いが本来はこの緩歩(只管打
坐)そのものでなければなりません。
『緩歩』の名に恥じぬよう、当青
年会の只管打坐たらんとする活動を
紙面を通して広報していけたらと願
います。今後ともより一層の御教導
の程を伏してお願い申し上げます。

広報委員長 松永寛道